

(131123 version)

## 第7回福島原発事故による長期影響地域の生活回復のためのダイアログセミナー

### 「いわきと浜通りにおける自助活動―被災地でともに歩む」

2013年11月30、12月1日（土・日）

会場：東日本国際大学 新一号館1階大講義室

<http://www.shk-ac.jp/>

発起人

国際放射線防護委員会（ICRP）

協力と後援

いわき市、放射線安全フォーラム、末続地区ふるさとを守る会、福島のエートス、  
福島県立医科大学  
経済協力開発機構・放射線防護公衆衛生委員会、フランス放射線防護・核安全研究所、  
ノルウェー放射線防護局、フランス原子力安全局

同時通訳

ディプロマット社（平野加奈江、町田公代）

### 会合関連サイト

ICRP 通信：<http://icrp-tsushin.jp/>

福島のエートス：<http://ethos-fukushima.blogspot.jp/>

### 経過と目的

国際放射線防護委員会（ICRP）は、長期汚染地域居住地域住民の防護に関する勧告において、汚染地域の住民と専門家が状況の対応に直接関与することが効果的であること、および国や地域の行政は地域住民が自ら決定しうる状況を作りだし、その手段を提供する責任があることを強調している。

この観点に基づき、ICRPは、2011年秋に会合を開催し、福島県の代表、専門家、地域住民の方々、およびチェルノブイリ事故について経験を有するベラルーシ、ノルウェー、フランスの関係団体からの代表などが、福島原発事故の影響をうけた地域の長期の回復に対する挑戦についてその方策をさぐるためのダイアログセミナーを行った。

2011年11月の第一回のダイアログセミナーは、ステークホルダーによる影響をうけた地域とそこでの懸念についての討論の促進を行った。

2012年2月の第二回のダイアログセミナーでは、福島地域の住民の状況と問題に焦点を当て、状況の理解の進展と、汚染地域の回復に向けた経験の共有することの価値を認識した。人々は、状況についての懸念を表明した。

2012年7月の第三回ダイアログセミナーでは、とりわけ困難な食品汚染の問題について、異なる要求をもつ消費者、流通業者、生産者に来ていただき、食品の品質の改善と消費者の信頼獲得にむけて議論した。

第四回ダイアログセミナーでは、これまでの3回のダイアログを通して得た理解を踏ま

え、子供の教育を取り上げた。参加者は放射線防護の備えの重要性を強調した。そのなかで個人が放射線状況を把握する重要な道具として測定があることが認識された。そして事故の記憶と経験は、その困難においてのみならず、積極的な側面もあることが認識された。

第五回ダイアログセミナーでは、「帰還」を取り上げた。帰還する、しないの決断は、単に放射線の状況のみではなく、長期汚染をこうむった地域における生活の全ての状況を考慮においてなされる。この決断には、帰還または帰らない、地域に留まるまたは地域を離れる、の複数の選択肢どれにも困難が伴う。また、決めかねている間に、状況は刻々と変化していく。この複雑で困難な問題について、幅広い関係者、組織、住民、教師、医師、行政、チェルノブイル経験者が一堂に会し、立場の違いを越えて、汚染地域の困難な状況に前向きに立ち向かうために共有すべき価値を探った。

第六回ダイアログセミナーでは、「飯舘」の人々が直面する現状と挑戦を取り上げた。2日間の熱心な議論を経て、4つの勧告がまとめられた。それらは異なる見解を表現することに敬意をはらい、情報の交換を助け、自ら定めることを推進するダイアログの場を作る。村民、研究者、専門家が協力して住民のためのプロジェクトを推進するための枠組みを確立する。除染の優先順位を定め、村民の被ばく低減に有効な他のすべての可能な方策について検討する。ご高齢の方々が飯舘に帰るか帰らないかを自ら決断するための状況を可能な限り速やかに作り上げる。

第七回ダイアログセミナーでは、いわきと浜通りの人々が専門家と共におこなった自助活動に焦点を当てる。いわき市では、事故後に避難者が流入する一方で市内から逃れる避難者もあり、複雑な状況にある。そのなかで地域の人々は、地域の放射線状況の理解と改善のための、事故後早い段階から自助がなされた。今回のダイアログセミナーでは、いわきと近隣市町村における活動からの経験について発表と討論がなされる。英国の経験として、チェルノブイル事故により長期の汚染をうけた地域の経験についての発表がある。

### 会合の進め方

**同時通訳**：英語と日本語の同時通訳をイヤホーンで聞くことができます。

### セッションの構成

午前のセッション：共有すべき事実関係についての発表です。

午後のセッション：帰還についての関係者の対話を行います。

**懇親会**：11月30日のセッション終了後に、いわき市内割烹「正月荘」で懇親会を開催します。参加無料です。皆様のご参加をお待ちしています。

<http://www.syougatusou.com/>

## プログラム

### 第1日目 11月30日(土)

#### 9:30-10:00 開会

全体司会：ジャック・ロシヤール(フランス、CEPN)  
多田順一郎(福島、放射線安全フォーラム)

#### 挨拶

ICRP 委員ジャック・ロシヤール氏の挨拶

#### 自己紹介

国内・海外参加者による自己紹介(各自1分で名前、専門、経験)

#### 10:00-11:00 セッション1：末続の取り組み

末続での活動(20分)

安東量子(福島のエートス)

末続での対話(40分)

安東量子

高木宏(末続、区長)

遠藤節子(末続)

遠藤正子(末続)

半谷典子(末続)

(11:00-各自コーヒープレーク)

#### 11:00-11:40 セッション1：末続の取り組み(続き)

いわき市のWBC測定(20分)

根本仁人(いわき市、保健センター)

末続での内部被ばく線量(20分)

宮崎真(福島医科大学)

#### 11:40-12:40 昼食

#### 12:40-14:00 セッション2 末続の挑戦を助ける友人達との連携

末続の歩み(20分)

遠藤真也(末続地区ふるさとを守る会)

末続の線量(20分)

柳井文人(東北イノベーター)

情報のチャンネルを作る(20分)

ナカイサヤカ(東京、福島おうえん勉強会)

東京から-末続で撮る-(20分)

高井潤(東京、写真家)

#### 14:00-16:00 セッション3 自助による放射線防護のための対話(ステップ1)

何が問題なのか?

司会：ジャック・ロシヤール

報告担当：デボラ・オウトン（ノルウェー、ノルウェー生命科学大学）

**ステップ1の進め方：**

ステップ1で対話参加者は設問に対する回答を2回行う。

初回は自分の意見を述べる。

今回は他の方々の意見を聞いたあとで、自分の意見を述べる。

**パネル討論参加者**

**専門家・NPO：**

江川紹子（東京、ジャーナリスト）

高井潤（東京、写真家）

ナカイサヤカ（東京、福島おうえん勉強会）

安東量子（福島のエートス、いわき）

早野龍五（東京大学）

柳井文人（東北イノベーター）

**地域住民：**

遠藤真也（末続、末続地区ふるさとを守る会）

高木宏（末続、区長）

遠藤節子（末続）

遠藤正子（末続）

半谷典子（末続）

上野敬幸（南相馬、福興浜団）

石田諭（南相馬、IT コンソーシアム）

但野謙介（南相馬、市議）

**医療・保健：**

宮崎真（福島県立医科大学）

**報道：**

早川正也（福島民報）

菊池克彦（福島民友）

大森真（テレビュー福島）

**16:00 – 16:30 コーヒーブレーク**

**16:30 – 17:30 報告担当者によるまとめと総合討論**

司会：ジャック・ロシャール

報告担当：デボラ・オウトン

**18:00 – レセプション 正月荘 (<http://www.syougatusou.com/>)**

参加は無料です。ご自由にご参加ください

## 第2日 12月 1日 (日)

### 9:30-9:50 開会

司会：ジャック・ロシヤール、多田順一郎  
新規参加者の自己紹介（各1分で名前、専門、経験）  
第1日目のまとめ

### 9:50-10:50 セッション4 いわきと浜通りの取り組み

いわきサイエンスカフェの活動（20分）  
河野拓馬（いわき、市水産振興室）  
いわき地域復興センターの取り組み（20分）  
佐藤健二（いわき明星大学科学技術学部）  
いわきの子どもを守るネットワークの活動（20分）  
團野和美（子どもみらいNPO）

### 10:50-11:00 コーヒーブレイク

### 11:00-12:20 セッション4 いわきと浜通りの取り組み（続き）

「ありがとうファーム」の取り組み（20分）  
宮崎晋（いわき）  
都路で自助努力を行う（20分）  
坪井久夫（都路、農家）  
南相馬の復興-1（20分）  
石田諭（NPO 南相馬 IT コンソーシアム）  
南相馬の復興-2（20分）  
上野敬幸（南相馬、福興浜団）

### 12:20-13:20 昼食

### 13:20-13:50 セッション5 チェルノブリの経験

英国カンブリアの羊農家とチェルノブイリ事故後に共に働いた経験（30分）  
デボラ・オウトン（ノルウエー、ノルウエー生命科学大学）

### 13:50-15:50 セッション6 自助による放射線防護のための対話（ステップ2）

いかなる条件と方法が必要か

司会：ジャック・ロシヤール  
報告担当：テリー・シュナイダー（フランス、CEPN）

#### ステップ2の進め方：

ステップ2の進行のやり方はステップ1に準ずる

#### パネル討論参加者

専門家・NPO・行政：高井潤（東京、写真家）  
ナカイサヤカ（東京、福島おうえん勉強会）  
安東量子（福島のエートス、いわき）  
早野龍五（東京大学）

地域住民：  
佐藤健二（いわき明星大学科学技術学部）  
柳井文人（東北イノベーター）  
團野和美（子どもみらいNPO）  
高木宏（末続）  
遠藤節子（末続）  
遠藤真也（末続、末続地区ふるさとを守る会）  
菅崎晋（いわき、ありがとうファーム）  
坪井久夫（都路、農業）  
坪井千賀子（都路、農業）  
石田諭（南相馬、IT コンソーシアム）  
上野敬幸（南相馬、福興浜団）  
但野謙介（南相馬、市議）

報道：  
早川正也（福島民報）  
菊池克彦（福島民友）  
大森真（テレビュー福島）

**15:50 – 16:20** コーヒーブレイク

**16:20 – 17:20** 報告担当者によるまとめと総合討論

司会：ジャック・ロシヤール

報告担当：テリー・シュナイダー（フランス、CEPN）

**17:20:** 閉会

全体のまとめ（10分）

テッド・ラゾ（フランス、経済開発機構）

閉会の挨拶

ジャック・ロシヤール